



教育DXで拓く未来の学び

久世均

(文部科学省 学校DX戦略アドバイザー・岐阜女子大学教授)

A solid blue horizontal bar at the bottom of the slide.

教育DXで拓く未来の学び

【目的】

子供たち一人一人に個別最適化され、創造性を育む学びとは何か、その実現のための“未来の学び”とはどのような学びで、従来の学びとどのように異なるのかについて考える。

【学習到達目標】

- 教育DX時代の社会の変化について説明できる。
- 教育DX時代における“未来の学び”について具体例を示して説明できる。
- 従来の学びと教育DX時代における“未来の学び”との関係について説明できる。

教育DXで拓く未来の学び

文部科学省におけるデジタル化推進プラン

- GIGA（Global and Innovation Gateway for All）スクール構想による1人1台端末の活用をはじめとした学校教育の充実
- 大学におけるデジタル活用の推進
- 生涯学習・社会教育におけるデジタル化の推進
- 教育データの利活用による、個人の学び、教師の指導・支援の充実、EBPM等の推進

教育DXで拓く未来の学び

21世紀の知識基盤社会で求められる学力の再定義

● 他者と共に新たな知識を創造してゆく力

● 知識循環型社会

- 様々な情報が溢れる中で、自分なりに活用できるよう「情報を統合して必要な知識を生み出す」必要性

● 知のギャップ問題

- 人類が知識生み出した故に抱えてしまった解の見えない問題（多文化共生、テロリズム、資源問題、地球温暖化、治療薬のない病気）に対しさらに知識を出し合う必要性
- 学校で学ぶ内容を超え、私たちよりも賢く

益川:教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザインから引用

教育DXで拓く未来の学び

- 2009年度発足した国際団体ATC21S
- (21世紀型スキルの評価と教育プロジェクト)

- 「ある目標を解決するために他者と共に様々なテクノロジーも活用しながら知識を生み出し、またそのプロセスを通じて新たな目標を発見するような知識を生み出し続けるスキル」

思考の方法	1. 創造性とイノベーション
	2. 批判的思考, 問題解決, 意思決定
	3. 学び方の学習, メタ認知
働く方法	4. コミュニケーション
	5. コラボレーション (チームワーク)
働くためのツール	6. 情報リテラシー
	7. ICT リテラシー
世界の中で生きる	8. 地域とグローバルのよい市民であること (シチズンシップ)
	9. 人生とキャリア発達
	10. 個人の責任と社会的責任 (異文化理解と異文化適応能力を含む)

教育DXで拓く未来の学び

- 学習活動を設計する上での2つのモデル

- **知識創造モデル**

- 新たな知識を生み出す、前向きアプローチ

- **知識習得モデル**

- 枠組み内の知識を覚えて使うのみ、後戻りアプローチ

- 4つの知識観(A~D)

- 知識創造モデル：Dで一体的に
- 知識習得モデル：A~Cを組み合わせ、順番に

	教師中心授業	学習者中心授業
教科の内容を中心に	A：知識の詰め込み	B：深い内容理解
資質・能力を中心に	C：スキルの訓練	D：スキルを引き出し深い内容理解

益川:教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザインから引用

教育DXで拓く未来の学び

- 21世紀型能力を育成する授業への変革

- 国立教育政策研究所

- 21世紀型能力

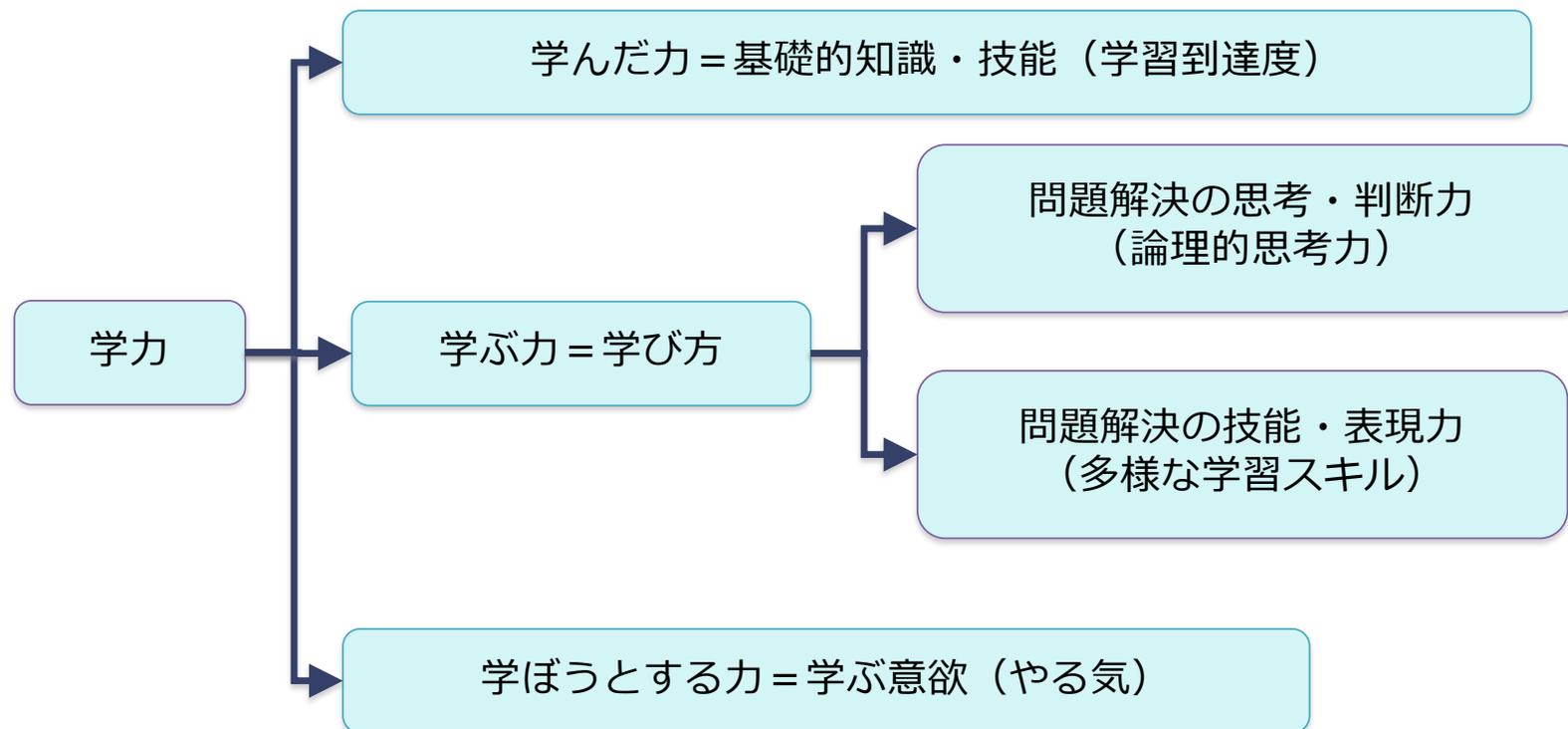
- 「深く考える（思考力）」を中心に、「道具や身体を使う（基礎力）」と「未来を創る（実践力）」を学習活動を工夫して一体的に育成する

- 現学習指導要領

- これからの資質能力：他者と協働しながら創造的に生きていく
 - 主体的・対話的な深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の導入
 - 学習活動を効果的にするための教育課程編成（カリキュラム・マネジメント）の工夫

教育DXで拓く未来の学び

学力の構造 (柴田, 1992)



教育DXで拓く未来の学び

ロバート・メーガー（Robert F. Mager）の3つの質問

■Where am I going?

（どこへ行くのか？）

■How do I know when I get there?

（たどりついたかどうかをどうやって知るのか？）

■How do I get there?

（どうやってそこへ行くのか？）

教育DXで拓く未来の学び

授業の目標の明確化

- 学習目標を明確に定義するための手段としては、
具体的な 目標やゴールを示していくこと
- 目標行動が評価される条件を明らかにすること
- 目的地までの道筋（すなわち学習方略）を明確にすること

教育DXで拓く未来の学び

授業の効果分析

授業の効果が上がらない要因

- 授業の目的やねらいを明確にしていない
- 効果測定として何を測るのか決めていない
- 誰がいつ測定するか決めていない

教育DXで拓く未来の学び

ブルームの教育目標分類学（教育目標のタキソノミーの全体的構成）

教育目標の見直し

評価 Evaluation		
統合 Synthesis	個性化 Characterization	自然化 Naturalization
分析 Analysis	組織化 Organization	分節化 Articulation
応用 Application	価値づけ Valuing	精密化 Precision
理解 Comprehension	反応 Responding	巧妙化 Manipulation
知識 Knowledge	受け入れ Receiving	模倣 Imitation
認知的領域	情意的領域	心的運動的領域

どのように
教育目標を
変えればい
いの？

深い学びと
は何か？

教育DXで拓く未来の学び

J・B・キャロルの学校学習の時間モデル

$$\text{学習率} = \frac{\text{学習に費やされた時間} \\ \text{Time Spent}}{\text{学習に必要な時間} \\ \text{Time Needed}}$$

図4-1 J・B・キャロルの学校学習の時間モデル（1）

教育DXで拓く未来の学び

J・B・キャロルの学校学習の時間モデル

$$\text{学習率} = \frac{\text{学習機会} \times \text{学習持続力}}{\text{課題への適性} \times \text{授業の質} \times \text{授業理解力}}$$

図4-2 J・B・キャロルの学校学習の時間モデル (2)

教育DXで拓く未来の学び

「教えないで学べる」学習環境

- ① クラウドコンピューティング (cloud computing)
- ② 電子書籍 (デジタル教科書)
- ③ フィールドワーク
- ④ e-ラーニング (e-Learning)
- ⑤ eポートフォリオ (e-Portfolio)
- ⑥ ラーニング・コモンズ (Learning Commons)

教育DXで拓く未来の学び

自律的なオンライン授業

- 授業の目的は「教えること」ではない。それは学習者が「自ら学ぶ」ことを手助けし、学習者に「行動変容」が起こることである。
- 「教えない」授業が主体的な学び手を前提として、よりフレキシブルな学習環境を提供すると共に、成人学習学の原則を踏まえる必要がある。

教育DXで拓く未来の学び

e-Learningという学習

e-Learningは、ただ単にe-Learningでの“授業で学ぶ”のみではなくて、

- 情報で学ぶ
- 経験して学ぶ
- 仲間から学ぶ

を取り入れたより幅の広いものだと捉えている。

教育DXで拓く未来の学び

対面授業とe-Learningの組み合わせ

【公開講座】デジタルアーカイブIN岐阜2024



令和6年度 岐阜県私立大学地方創生推進事業 デジタルアーカイブIN岐阜

「DXで実現する地域のデジタル人材育成事業」

～リスキリング (Reskilling) という学び～

【目的】

地域産業や地域社会を担う人材確保のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスキリングを推進します。
このためにリスキリング教育のための「Multi Campus One Digital University」を新たに構築し、地域人材の育成カリキュラムを開発し実現します。

【事業内容】

産業界や社会のニーズを満たすリスキリング教育プログラムの開発・提供を行い、社会人のスキルアップやキャリアアップ、キャリアチェンジを後押しします。

本リスキリング教育プログラムのコンセプトとして、時代の潮流に即した最先端で、各分野において最先端の知見を有する講師により、スキル修得を目的としたコンテンツを活用し、いつでもどこでも学習できる柔軟であるオンデマンドな学習環境を構築します。

本学が提案していますリスキリングプログラムは、オンライン (Zoom) 講座とオンデマンド (e-Learning) 講座を組み合わせたプログラムです。

令和6年度、本学が提供するリスキリング教育プログラムは以下の通りです。

【プログラム】

「AI人材の養成」

教育DXで拓く未来の学び

対面授業とe-Learningの組み合わせ

○学校DX概略とその理論

テーマ	講師名(敬称略)	所属	講演テーマ
学校DX概略とその理論	武藤久郎	文部科学省 教育課程課長	次期教育課程と教育DX
	東原義訓	信州大学名誉教授 東原 学び研究所	GIGAスクール時代に相応しい授業のために
	坂田謙也	東京学芸大学大学院教育学研究科 教授	セカンドGIGAへの展望と課題
コーディネータ			村瀬謙一郎(岐阜女子大学教授)

◆ e-Learning (オンデマンド講座)

テーマ	講師名(敬称略)	所属	講演テーマ
学校DX概略コーディネータ特講【1】 ～ 教育DX時代における新たな学び ～	久世 均	岐阜女子大学教授 デジタルアーカイブ研究所長	教育DX時代における新たな学び
			21世紀に求められる学力と学習環境
			主体的・対話的な深い学びの実現
			学習目標とその明確化
			学習目標のデザイン
			教えて考えさせる授業の展開
			協働的な学びのデザイン
			「教えないで学べる」という新たな学び
			遠隔授業のデザイン手法
			自律的なオンライン授業の分析と設計
			新たな学びと教育リソース
			教育活動をデジタルアーカイブする
			思考力を高めるための学習プロセスの反応分析
高大連携による地域課題探究型学習			
「教える」から「学ぶ」への変革			

教育DXで拓く未来の学び

対面授業とe-Learningの組み合わせ

オンライン講座



学校DX戦略コーディネータ講座 ～ 学校DX戦略とその理論 ～

目次

学校DX戦略コーディネータは、学校や教育機関においてデジタルトランスフォーメーション（DX）戦略の計画、実施、および評価をし、効果的に推進する役割を担う専門家を指します。

プログラム:

1. 「次期教育課程と教育DX」

講師: 武藤久美子 (文部科学省・教育課程課)

動画

【公開済み】 学校DX戦略とその理論

資料

次期教育課程と教育DX

2. 「GIGAスクール時代に相応しい授業のために」

オンデマンド講座(e-Learning)

- プレゼン資料
- 動画資料
- テキスト



第1講 教育DX時代における新たな学び

久世 均 (岐阜女子大学・教授)

1. 何を学ぶか

子供たち一人一人に個性を認められ、創造性を育む学びとは何か。その実現のための「新たな学び」とはどのような学びで、従来の学びとどのように異なるのかについて考える。

2. 学習到達目標

- 教育DX時代の社会の変化について説明できる。
- 教育DX時代における新たな学びについて具体例を挙げて説明できる。
- 従来の学びと教育DX時代における「新たな学び」との関係について説明できる。

3. 課題

- 教育DX (Digital Transformation) についてその意義と可能性について説明しなさい。
- GIGAスクール構想について、具体例を挙げて説明しなさい。

4. プレゼン資料

遠隔教育特講、プレゼン (第1講)

5. 動画資料



6. 資料

- デジタル推進化プラン

教育DXで拓く未来の学び

対面授業とe-Learningの組み合わせ

- 幼児教育コーディネータ概論
- 小中連携教育コーディネータ概論
- 学校DX戦略コーディネータ概論

教育DXで拓く未来の学び

【目的】

子供たち一人一人に個別最適化され、創造性を育む学びとは何か、その実現のための“未来の学び”とはどのような学びで、従来の学びとどのように異なるのかについて考える。

【学習到達目標】

- 教育DX時代の社会の変化について説明できる。
- 教育DX時代における未来学びについて具体例を示して説明できる。
- 従来の学びと教育DX時代における“未来の学び”との関係について説明できる。

教育DXで拓く未来の学び

久世均

(文部科学省学校DX戦略アドバイザー・岐阜女子大学教授)

